

Title	前号目次 奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.6 (1923. 6)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230601-0153">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230601-0153</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に伴ひて生ぜるものなり。マンチエスター學派の如く極端なる放任主義を唱ふるは非なり。されどマルクスに見る如き極端なる個人の無視も亦採るべからずとて中庸の必要なるを謂ふ。史上の一例として十八世紀末葉に於る英國救貧法の諸弊を糺正し、世の政策論者に架空の論多きことを指摘し個人の人格の健全なる發達に努むべきことを力説す。

經濟眼に映じたる最近の南米 山科禮藏氏

昨秋、横濱を出帆し最近歸朝せる南米視察實業團々長としての實際談なり。國務卿ヒューズ氏との會談より立論し、反米熱狂なるブラジルを以て我移民地として適當なりとし、同地に於る我國商業不振の理由として見本取引と金融機關との不備とを擧ぐ。

資本利子に關する一考察 土方成美氏

資本利子の發生に就きて、其は經濟社會の發達に依ると謂ふ見解あるに反しオツペンハイマアは資本利子の發生は必ずしも社會が動蕪たるを要せず靜態にて發生し得るものなりとせり。此の兩説は全然相容れざるか、相容るにせよ調和點を見出し得るやとてベーム・バゲルグの價値時差説を論じ、次いで、利子は常に時差のみならず、社會の動態を前提とすと言ひしシユンハーターの説を紹介す、更に生産力説を論じロシアの利子觀を述べ氏の見解を披瀝す。曰く、當初の元本をコンスタントに保

つのみならず、更に進んで餘剰を得んとするものなるを以て此の増殖は靜態に求むるを得ずと、又、地代と企業利潤との區別の不要を主張し、今日の資本家の偶然の理由に因る利子收得を論じたり。

狩太に於ける農場に於て 有島武郎氏

約四百五十町歩に及ぶ氏の農場は膽振國虻田郡狩太村に在りて開拓使當時、氏の殿父が或は米國の大農場制を用ゐて失敗し、或は大地主と小作人との關係に於て幾多の弊害の行はれたるものなり、氏は札幌農學校當時より、明治四十年頃、外遊を終り、近く該地の農民に相互扶助的なる生産組合の組織を求むる迄、常に膺裏を離れざりし問題は私有財産制度の欠陥なりき、或は、英國に於るクロボトキンとの會見或は加奈陀に於るルフアポールの共產主義の失敗を説き、狩太村の生産組合組織の實現と其將來に對する氏の態度を明かにされたり

午後五時半閉會を宣す、聽講者七百

土方教授を主賓として萬來舎に晚餐會を開き卓を圍んで歡談、午後九時散會す、出席者次の如し

- 土方成美氏 瀧本教授
阿部 增井 金原 津田 伊藤の諸教授
幹事 三年 櫻森 平野 竹中
二年 江守 日比野 山本 永田 江越 駒崎
一年 和田 濱谷

前號(第十七卷) 第五號 目次 (大正十二年五月號)

論說

原始基督教と社會問題(上) 高橋誠一郎

社會主義と國家(四、完) 小泉 信三

鑛道賃率制禦策としての最高限度 増井 幸雄

制定に就て 増井 幸雄

雜錄

カントに歸つて經濟學を論ず 勝田 貞次

社會思想家としてのジョン・ラスキンの生涯(五) 奥井復太郎

「人口論」批判(下) 津田 誠一

基督教義と羅馬法理(上) 打村 鑛三

カロリン・フオックス女史とジョン・スチュアート・ミル(三) 榎本 鑛治

チュードル、スチュアート兩朝に於ける

工業政策(三) 高木 壽一

一冊定價金五拾錢 郵税金貳錢
半年分金貳圓九拾錢 郵税金貳錢
一年分金五圓四拾錢 郵税金貳錢

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十二年五月廿一日印刷納本
大正十二年六月一日發行
每月一回一日發行

三田學會雜誌 第七十卷 第六號
編輯者 江田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵五郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金子活版所

發賣元 丸善株式會社三田出張所
東京市芝區三田貳丁目壹番地
電話高輪 一九二六
尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會